

出張日程

○12月9日（土）

午後 名古屋駅発（新幹線）
羽田空港発

○12月10日（日）

午前 シドニー国際空港着
午後 シドニーオペラハウス視察（文化施設の視察）
ザ・ロックス地区視察（歴史的町並み保存地区の視察）

○12月11日（月）

午前 現地旅行社との意見交換
午後 一般財団法人自治体国際化協会シドニー事務所訪問及び意見交換
在シドニー日本国総領事館訪問及び意見交換
シドニーカスタム・ハウス図書館との図書交流

○12月12日（火）

午前 オーストラリア博物館訪問及び意見交換
午後 クランブルック高校訪問及び意見交換
タロンガ動物園訪問及び意見交換

○12月13日（水）

午前 名古屋ガーデン視察
シドニー市役所表敬訪問
午後 シティ・リサイタル・ホール視察（文化施設の視察）
グリーン・スクエア再開発地区視察（再開発地区・環境先進地区の視察）
シドニー名古屋姉妹都市委員会との意見交換

○12月14日（木）

午前 JTB オーストラリア訪問及び意見交換
日本旅行（オーストラリア）訪問及び意見交換
午後 シドニー国際展示場（ICC シドニー）視察
日本政府観光局（JNTO）訪問
シドニー国際空港発

○12月15日（金）

午前 羽田空港着
名古屋移動（新幹線）

12月10日

○シドニーオペラハウス視察

場 所：シドニーオペラハウス

内 容：

- ・本市の文化施設の参考とするため、シドニーオペラハウスを視察した。
- ・1973年に完成したシドニーオペラハウスは、20世紀を代表する近代建築物で、歌劇場・コンサートホールなどを持ち、2007年に世界遺産リストに登録された。
- ・世界遺産リストに登録されるには10種類ある登録基準のうち一つ以上を満たしていると判定される必要があるが、シドニーオペラハウスは「人類の創造的資質を示す傑作」という、ただ一つの基準に適合しただけで登録され、それほどまでに“クリエイティビティを宿した建造物”として評価されている。
- ・シドニーオペラハウスは外装が完成してから内装が作られており、建物の中にさらに建物がある特殊な造りとなっている。
- ・コンサートホールには2,679の座席が備わり、オペラやバレエ・演劇など毎年1,600もの公演が開催される。車いす用の席もあり、そのエリアは決まっている。
- ・建物の外につながる大階段エリアも活用して野外公演を開催するなど、建物の前庭のエリアも、もう一つの劇場として活用されている。
- ・建物完成後に、バリアフリー対策としてエレベーターを設置することとなり、狭いスペースでも取付けが可能な油圧式エレベーターが採用されている。



オペラハウス外観



オペラハウス内観



建物の中にさらに建物がある様子



グループチェックインカウンター



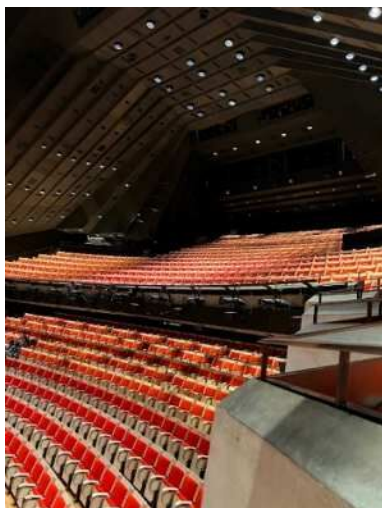
チケット売り場



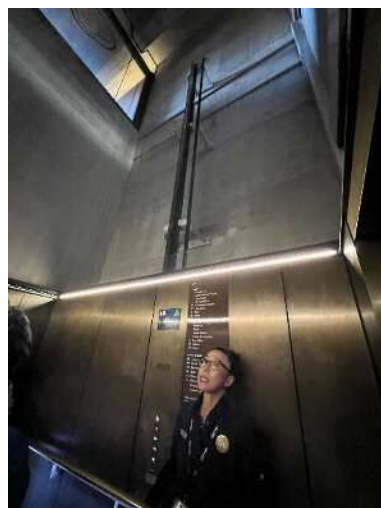
コンサートホール



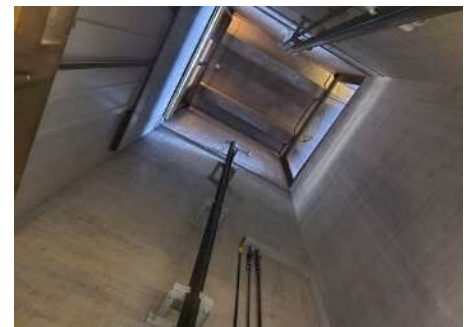
オペラハウス前庭での野外コンサートの様子



コンサートの座席



油圧式エレベーター



油圧式エレベーターから天井をみた様子

○ザ・ロックス地区視察

場 所：ザ・ロックス地区

内 容：

- ・歴史的な街並みを活用した街の賑わいづくりの参考にするため、歴史的町並み保存地区ザ・ロックスを視察した。
- ・ザ・ロックスは、シドニーの発祥の地であり、19世紀の建物のほとんどが保護、復元され、今もヴィクトリア時代の古い街並みが残っている。
- ・ザ・ロックスの歴史は古く、シドニー流刑地に入植が始まった1788年直後に木造の建物が建ち始めた。1970年代以降、ザ・ロックスの歴史的街並みが再評価され、多くの建物が文化財として登録された（開発が制限されている）。
- ・観光客向けの商業施設も集まっており、観光案内所もある。
- ・毎週土曜日と日曜日には「ロックス・マーケット」という有名な青空マーケットが開催され、多くのカフェやレストラン、ショップなど200店舗以上のお店が並ぶ。
- ・視察した日は日曜日でマーケットが開かれており、道路が歩行者専用となっていて、大変多くの人で賑わっていた。



ロックス地区の古い建物



マーケットの様子



歩行者専用道路



歩行者専用道路

12月11日

○現地旅行社との意見交換

場 所：株式会社オディノボ・ツアーズ

対応者：ルーシー・ペン部長

内 容：

- ・株式会社オディノボ・ツアーズは、シドニー中心部から電車で20分程の位置にあるシドニー北部の中心地、チャッツウッドにある現地旅行会社。
- ・主に個人や家族旅行のお客様を対象としており、ニュースレターやSNS、ウェブサイトでも日本向けも含めたツアーの営業をしている。
- ・グーグルで広告を出しており、アメリカからの申し込みも多く、オーストラリアからだけでなく、世界中から日本へ旅行者を送ることができる。
- ・オーストラリアからのインバウンド誘致を目的に、本市の観光コンテンツについてPRするとともに、本市の認知度および観光需要について意見交換を行った。
- ・同社の分析では、コロナ以降、日本への旅行者は急速に回復しており、エジプト、タイ、ベトナムと比べても日本の関心は高い。
- ・同社の顧客データの分析では、日本へ来ている国別の順位を見ると、アメリカ80%、オーストラリアは9%で、オーストラリアのポテンシャルは大きいと考えている。
- ・日本の他都市と比べると名古屋への観光客は少ない。
- ・セントレアはアジア便が多いが、欧米豪の旅行者は東京や大阪から日本に入ってくるので名古屋はあまり知られておらず、東京・大阪経由の名古屋入りという旅になる。
- ・日本を訪ねていきたい年齢層の幅は広い。
- ・オーストラリア人が関心あることは、歴史と食べ物、グルメ。
- ・シドニーで開催されたジャパンエキスポでも人気だった。



記念撮影

○一般財団法人自治体国際化協会シドニー事務所訪問及び意見交換

場 所：一般財団法人自治体国際化協会シドニー事務所

対応者：所長 平木 万也氏

次長 小泉 さよ子氏

内 容：

- ・地方公共団体等の海外活動支援など行っている一般財団法人自治体国際化協会（通称「クレア」）のシドニー事務所を訪問した。
- ・松雄副市長から、シドニー市との姉妹都市交流へのご支援についてお礼を伝え、令和7年度の姉妹都市提携45周年記念事業についての協力をお願いした。また、観光や教育分野に特に力を入れていきたいと考えており、今後も情報提供してほしい旨をお願いした。
- ・平木所長から「名古屋市の姉妹都市交流はすばらしく、他都市の模範となるものだと思うている。」とのお言葉をいただいた。

- ・その後、平木所長からオーストラリア概況についてご説明をうかがい、意見交換を行った。
- ・オーストラリアでは、実質GDPは右肩上がりに推移しており成長を続けている。
- ・一人当たりGDPは、2022年日本31位に対し、オーストラリアは10位となっている。
- ・オーストラリアの貿易（2021-2022年）では、輸出相手国1位中国（30.2%）、2位日本（15.6%）、3位韓国（8.2%）、4位インド（5.6%）、5位米国（4.5%）となっており、輸入相手国1位中国（22.6%）、2位米国（10.8%）、3位シンガポール（5.6%）、4位日本（5.3%）、5位ドイツ（4.5%）となっている。
- ・オーストラリアの人口の約3割は外国生まれ。2割以上が家庭で英語以外の言語を使用。人口増加率（+2.2%）のうち移民による増加は、約81%。
- ・65歳以上の人口比率（2022年）は、オーストラリア16.7%、日本29%。
- ・合計特殊出生率（2021年）は、オーストラリア1.70、日本1.30。
- ・オーストラリアの移民政策に関する政府機関の役割は次のようになっている。
- ・連邦政府は、入国管理、市民権付与、移住者に対する定住支援、政府・公共サービスへのアクセスの保障、語学研修の実施、翻訳・通訳サービスを担う。
- ・州政府は、公立学校における英語学習機会の提供、公立病院での多言語での診療、公共住宅の貸付け、翻訳・通訳サービス、エスニックコミュニティに対する助成金の交付などを担う。
- ・地方自治体は、コミュニティへの支援(日常活動、英語学習、文化的な行事、企業、商店街振興等)、定住に係る相談業務を担う。
- ・オーストラリアから日本への旅行者数は、2011年162,578人から2019年621,771人へと約4倍に増加し、2020年から2022年はコロナにより大幅に減少したものの2023年は、1月から10月末までで464,000人と多くの人が日本へ旅行に来ている。
- ・また、オーストラリアからの旅行者の特徴(2019年)として、消費額が高く、滞在期間が長い特徴がある。一人当たり旅行支出額は248,000円（全市場中第1位）、平均滞在日数9.8日となっている。



記念撮影（室内）



記念撮影（バルコニー）

○在シドニー日本国総領事館訪問及び意見交換

場 所：在シドニー日本国総領事館

対応者：総領事 徳田 修一氏

副領事 関山 雄太氏

内 容：

- ・シドニーにある日本国総領事館を訪問した。
- ・松雄副市長から、シドニー市との姉妹都市交流へのご支援についてお礼を伝え、令和7年度の姉妹都市提携45周年記念事業についての協力をお願いした。
- ・また、今回、オーストラリア博物館を訪問させていただく旨を伝え、オーストラリア博物館への訪問については、徳田総領事始め総領事館の皆様へ、ご支援とご協力をいただいたことに対してお礼を申し上げた。
- ・その後、徳田総領事から、最新のオーストラリア・シドニーの概況についてのご説明をうかがい、意見交換を行った。
- ・2019年度まで28年連続で経済成長を続けたオーストラリアで、シドニー市があるニューサウスウェールズ（NSW）州は最大の経済規模となっている。
- ・移民政策により、先進国でありながら高い人口増加率を維持している。
- ・NSW州にとって日本は世界第2位の貿易相手である。
- ・日本は主に石炭を輸入し、日本からは主に自動車を輸出している。
- ・オーストラリアへは、日本から多様な分野において投資が行われており、米国、英国に次ぐ3番目に大きい直接投資残高を有する。
- ・日本食の人気は高い（寿司、ラーメン、和牛、弁当、カツ、おまかせコース等）。
- ・日本からオーストラリアへの清酒輸出額は、2021年7.30億円（前年比48.8%増）で、世界第7位。
- ・シドニーにおいてはJAL、ANA、カンタスが羽田線を毎日運航。



打合わせの様子



記念撮影

○シドニーカスタム・ハウス図書館との図書交流

場 所：カスタム・ハウス図書館

対応者：サーシャ・バローニ クリエイティブ・シティ担当エグゼクティブマネージャー
ヘザー・デビス 図書館・学習部門エグゼクティブマネージャー

内 容：

- ・カスタム・ハウス図書館は、1845～1990年に使用されたオーストラリア最初の税関。1788年にイギリスの入植船が着岸した際、国旗を掲揚した地ともいわれる。現在は市立図書館などになっており、カフェも併設されている。
- ・シドニー市所管のカスタム・ハウス図書館にあるジャパニーズ・コレクションの部屋の一面に本市鶴舞中央図書館から名古屋市に関する本などを寄贈し、名古屋市のキャラクター「はち丸」や名古屋市出身のシドニーで活動している折り紙作家のファーズみどり氏の作品で装飾を施した「名古屋シドニー姉妹都市コーナー」を設置して、図書交流開始の式典を行った。
- ・今回は、名古屋の文化を紹介する図書など10冊を贈呈し、シドニー市からも図書10冊をいただいた。
- ・松雄副市長からは、図書の交換を通じて両市の文化等の知識を互いに知る機会の拡大が図られることに対してお礼を伝えた。また、今回、シドニー市からも図書をいただいたので、名古屋の鶴舞中央図書館に置かせていただいて、名古屋の皆さんに楽しんでもいただく旨の挨拶を行った。
- ・長谷川副議長からは、この交流を大切に育んでいくことにより、両市が未来に向かって、より強い親善の絆で結ばれるものと確信をいたしております、とのご挨拶があった。
- ・その後、松雄副市長からファーズみどり氏へ「名古屋シドニー姉妹都市コーナー」を飾ってくださったことに対して感謝状が贈られた。
- ・13日シドニー市役所表敬訪問時に、市役所にて図書交流に関する覚書の締結を行った。



図書館の様子



「名古屋シドニー姉妹都市コーナー」の前で
贈呈された本をもって記念撮影

12月12日

○オーストラリア博物館訪問及び意見交換

場 所：オーストラリア博物館

対応者：アマンダ・ファーラー オーストラリア博物館広報・開発担当ディレクター
クリストファー・ヘルゲン オーストラリア博物館研究所所長

内 容：

- ・1827年に開館され、オーストラリアで初の博物館であるオーストラリア博物館を訪問した。同館との交流を模索している名古屋市科学館の職員も同行した。
- ・オーストラリア博物館は、自然史博物館としては世界で5番目に古い歴史のある博物館である。
- ・展示場、展示ホール、図書室、ミュージアムショップ、レストラン、研究施設（オーストラリア博物館研究所）等が施設内にある。
- ・研究者も含めて約200人を超える職員が在籍している。
- ・研究部門が組織されていて、研究にも重点を置いている博物館である。
- ・展示は、動物などの生物、オーストラリアや周辺の島国の歴史や文化、恐竜、鉱物、気象変動など多岐にわたる展示がされている。
- ・松雄副市長からは、「こうした素晴らしい博物館と名古屋市科学館が学び合いながら、お互いを高め合う関係を持つことができれば大変ありがたいことで、連携した事業なども実施することができれば、より良いサービスの提供につながり、両館の利用者にとってメリットのあることだと思う」と挨拶をした。
- ・長谷川副議長からは、「オーストラリア博物館の皆様におかれましては、両市の友好・交流が一層深まりますよう、ご支援・ご協力をお願いしたい。」とのご挨拶があった。
- ・館内視察後のミーティングでは、今後、名古屋市科学館との交流について、情報共有や人材育成を図る人事交流や、企画内容の共有・交換を行い、両市の市民の方々に様々な展示を楽しんでいただくことについて前向きなご回答があり、引き続き両館において調整を進めていくこととなった。

【視察概要】

グランドフロア（1階）

- ・ワイルドプラネット（Wild Planet）：世界の生物について剥製、骨格、化石など400点以上の展示
- ・オーストラリア博物館の200の宝物（200 Treasures of the Australian Museum）：収蔵品の展示やオーストラリアに影響を与えた人物の紹介 ※白瀬中尉が南極観測の際に現地の地質学者へ贈呈した日本刀が含まれている
- ・ガリアラン（Garrigarrang）：海辺の住む人々の文化や儀式の物品について展示
※ガリアランとは先住民のエオラ族の言葉で海の国という意味

1 中間階

- ・鉱物（Minerals）：博物館の収蔵品（約80000点）から厳選

した岩石・鉱物・宝石・隕石の展示

- ・オーストラリア博物館の200の宝物：収蔵品の展示やオーストラリアの歴史等に関連した人物の紹介

2F

恐竜 (Dinosaurs)：骨格、化石などの中生代の恐竜の展示

- ・Burra【子供の学習と遊び】(Burra learning and play space for kids)：ウナギの目を通したライフサイクルの体験展示、環境などを学習する。(児童向け)
- ・ワンソルモア (Wansolmoana)：太平洋の島々(パシフィカ)と人々をつなぐ文化、歴史、習慣・慣習を芸術作品(頭飾り等)や生活関連(カヌー、釣り針等)を展示
- ・気象変動 (Changing Climate)：気候変動の原因、2040年の生活環境、対策等を映像などで展示
- ・オーストラリアの鳥 (Bird of Australia)：市内の在来鳥、オウムからペンギンまで剥製などの展示



子ども向けスペース



子ども向けスペース



子ども向けスペース



研究しているところが子どもでも見学しやすいように段を設置



先住民の物品の展示



先住民の物品の展示



グランドフロア 1 階の様子



グランドフロア 1 階の様子



打ち合わせの様子



記念撮影

○クランブルック高校訪問及び意見交換

場 所：クランブルック高校

対応者：ニコラス・サンプソン校長

ボブ・メイキン副校長兼高校校長

アンジェリーク・サンダース学生ウエルビーイング部長

モニカ・ウェイ日本語教師

内 容：

- ・クランブルックスクールでは、名古屋市教育施策に反映させるために、教育現場の立場からの教育制度やいじめ対策についてヒアリングを行った。
- ・1918 年、フレデリック・トーマス・パーキンス牧師が初代校長として創立したクランブルックは、現在、プレスクール（4 歳）から 12 年生（18 歳）までの約 1,300 名の生徒を受け入れている。名古屋市立高校生が、2023 年 7 月 24 日（月）から 8 月 2 日（水）の海外派遣事業の際に男子学生 5 名が当校を始めて訪問している。
- ・いじめ対策については、「ハウスシステム」を導入している。
- ・「ハウスシステム」とは、生徒が知られ、評価され、目的を持っていると感じる環境を促進するように設計された学校の最大の強みの 1 つである。
- ・学生は、クランブルックの 12 の寮の 1 つに所属することに加えて、通常は自分の学年の約 20 人の学生からなるメンター グループにも所属する。
- ・すべての教師とすべてのスタッフメンバーは、生徒の個人的な健康に専念する学校全体のチームの一員でもある。
- ・12 の寮は、学校が各生徒に個別のケア、個人指導、人格形成を提供する構造を形成している。
- ・ハウスの構造は、教室での教育学、特定の福祉政策、課外活動、学習支援、カウンセリングサービス、宗教教育を補完し、各生徒の成長を育むように設計されている。
- ・年長の生徒は「バディ」システムを通じて年少の生徒を励まし、サポートするが、寮内のグループにより、生涯続く強い友情の絆が生まれる。
- ・ハウスは、学生が公式および非公式の環境で互いに交流する機会を提供するために垂直構造になっている。
- ・年長の生徒は、家庭教師グループや「バディ」システムを通じて年少の生徒を励まし、サポートする。
- ・クランブルックは、年齢層を超えた交流レベルの高さで定評がある。したがって、7 年生から始まる最年少の生徒には、最初から上級の生徒と関わる機会が複数与えられる。
- ・それぞれの生徒が、グループに属している。午前休憩、1 日 20 分ほど、メンターとマスターに相談する時間がある。このメンターやマスターは先生と異なる役割を担っていて、友達、学業、家族の問題を語る時間となる。
- ・いじめられていることは、まずは、メンターに話がいく。ディレクターや先生に行くこともある。複数の層を設けることにより安心感が生まれる。
- ・生徒自身が求めた場合、精神科につなげる。カウンセラーが必要だと判断する場合も医

師へ紹介することがある。

- ・ いじめについては、まわりの気付きが大事なので、「バイスタンダー」（傍観者）から「アップスタンダー」（立ち上がって言おう）になろうと声かけをしている。



校長先生とご対面の様子



教育施策についてのヒアリング



学校の様子



学校の様子

○タロンガ動物園訪問及び意見交換

場 所：タロンガ動物園

対応者：キャメロン・カー最高経営責任者

サイモン・ダッフィー タロンガ動物園長他

内 容：

- ・ 東山動植物園の姉妹動物園であるタロンガ動物園を訪問した。
- ・ シドニー市近郊のモスマン市に1916年10月7日に開園。入場料は大人46ドル、子ども（4歳～15歳）26ドルで、学生や高齢者に対する減免制度がある。
- ・ 東山動植物園とタロンガ動物園は、名古屋市とシドニー市の姉妹都市提携を機に交流を深め、1984年にはタロンガ動物園から東山動植物園へ日本で初めてとなるコアラが贈られ、両動物園は1996年に姉妹動物園提携を結んだ。
- ・ コアラ以外にも、「イケメンゴリラ」で全国的に人気を呼んでいるニシローランドゴリラ

のシャバーニやウォンバットなどが贈られ、名古屋からはインドサイ、コツメカワウソなどを贈るなど動物交換による交流が盛んに行われている。

- ・タロンガ動物園では、動物交換や職員交流など、今後の動物園交流について意見交換をし、また、改めて東山動植物園にオスのコアラをいただけないかお願いをした
- ・松雄副市長からは、姉妹動物園である両動物園の交流は、これまでたくさんの市民の方々の笑顔を生み出してきており、とても重要な交流であり感謝している。さらなる動物園交流の強化と、コロナ以来停止していた飼育員同士の人事交流を再開していただくようお願いをした。
- ・長谷川副議長からは、タロンガ動物園の皆様におかれましては、今後とも両園が姉妹動物園として友好・交流が一層深まりますよう、引き続き、ご支援・ご協力をお願いした。
- ・キャメロン・カー最高経営責任者からは、日本との交流は光栄であり、今、動物園は、非常に重要な役割果たす時期と認識している。これからの動物園は、地域のリーダーシップという役割や地球環境や野生動物に対してどのように対峙していくかを考えていく役割があると考えている。さらに、次世代の子どもたちに、感動を与えインスピレーションを与えていく必要があると挨拶した。
- ・視察先としてタロンガ科学学習研究所を訪問し、没入型の生息地教室を視察した。生きた動物の生息地と教室が融合したこれらのスペースは、カリキュラムの優先分野に沿った本格的な学習体験を提供している。
- ・東山動植物園に送られる予定のコアラの様子を見た。来年度に東山動植物園に送られる予定である。
- ・オーストラリアの固有種であるタスマニアデビルを視察した。
- ・タスマニアデビルは、1990年代に癌に感染してしまう問題が発生した。
- ・オーストラリア国内の動物園が協力して、タスマニアデビルを野生に返すという繁殖保全活動をした。これが、現在の動物園の重要な役割であり、地域住民などのコミュニティを巻き込むことが、今後必要であるという説明があった。



タロンガ科学学習研究所の外観



タロンガ科学学習研究所内でのヒアリング



タロンガ科学学習研究所内での説明



タロンガ科学学習研究所での様子



コアラの様子



東山動植物園の動物のフォトフレームを贈呈



タスマニアデビルの説明



タスマニアデビル増殖活動の説明パネル

12月13日

○ナゴヤ・ガーデンの視察

場 所：ナゴヤ・ガーデン

内 容：

- ・ハイド・パーク内にあるナゴヤ・ガーデンを訪問した。
- ・ナゴヤ・ガーデンは、1983年に設置された。
- ・姉妹都市提携40周年記念としてシドニー市へ贈った植物の馬酔木（あしび）や椿が、コロナ禍のため植樹が延期され、2022年12月に植樹されたため、見学をした。
- ・今回、現場を見学後、シドニー市役所を訪問し、記念植樹のプレートを贈呈した。



ナゴヤ・ガーデンの説明



記念植樹プレートの前にて

○シドニー市役所訪問

場 所：シドニー市役所

対応者：ロバート・コック シドニー市副市長

ロッド・カークマン シドニー市市長室プロトコール担当マネージャー

内容：

- ・シドニー市役所において、ロバート・コック副市長を表敬訪問した。
- ・2020年に名古屋シドニー姉妹都市提携40周年を迎えた際に、ナゴヤ・ガーデンに馬酔木（あせび）と椿が植樹予定だったが、コロナ禍のため延期され、2022年12月実際に植樹された。今回コロナ禍後初の渡航にあたり、植樹記念プレートの贈呈を行った。
- ・また、前々日の11日（月）にカスタムハウス図書館で図書交流開始の式典を行ったが、図書交流に関する覚書の締結を両市副市長の立ち合いのもの、シドニー市役所にて行った。
- ・ロバート・コック副市長は「実際に対面で話ができるのはうれしいこと。文化交流は非常に重要なことだと考えているので、これからも盛んな交流が続くことを願っている。」とご挨拶があった。
- ・松雄副市長は「今後も末永く友好関係を継続していくとともに、世界中から観光客が訪れ

るシドニーの街づくりや雰囲気参考にしていきたい。」とご挨拶をした後、今回のシドニー訪問によりカスタムハウス図書館、オーストラリアン博物館、タロンガ動物園など様々な機関を訪問したことについて話をし、2025年度の姉妹都市提携45周年に向けた更なる連携強化へのご支援とご協力をお願いした。

- ・長谷川副議長は「新型コロナウイルス感染症の影響により渡航を見合わせていた間においても両市の交流は決して途切れることなく、着実に友好を深めることができていたものと実感した。今後、ますます、両市の友好・交流が深まり、未来に向かって、より強い親善の絆で結ばれますよう、名古屋市会といたしましても、精一杯努力する。」と挨拶した。



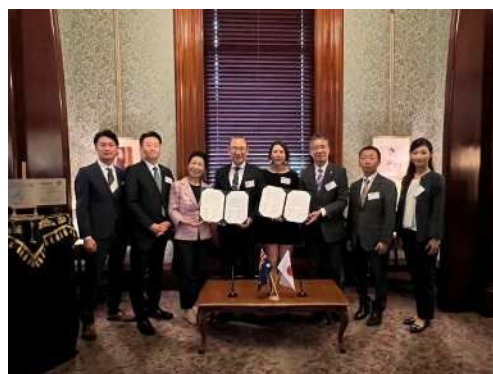
会談の様子



記念品の贈呈



植樹プレート贈呈式



図書交流に関する覚書の締結

○シティ・リサイクル・ホール視察

場 所：シティ・リサイクル・ホール

対応者：ジェイン・ヒュース リレーションシップマネージャー

内 容：

- ・シドニー市が所管する、シドニーの中心業務地区の中心部に位置するコンサート会場「シティ・リサイクル・ホール」を視察した。
- ・このホールは、1999年にオープンし、3層の傾斜席に座っている1,238人のゲストを収容できる専用のコンサート会場である。

- ・ソロのリサイタル、室内楽、話し言葉のために特別に設計された。講堂の 1.8 秒の残響時間は室内楽用に調整されている。
- ・最近、椅子を取り換えた。ホールの椅子の移動が可能。全部の椅子を変えるのに、6 時間くらい時間がかかる。
- ・2024 年の予約は埋まっている。しかし、2025 年はまだ空きがある。
- ・ホールは、高さが幅の 2 倍、長さが幅の 3 倍で、音楽に最適な形で設計されており、交響楽団に最適との説明があった。
- ・バリアフリー対策の一つとして、車いすのスペースが整えてある。また、スタッフは、障害者対応ができるようにトレーニングをしている。



シティリサイタルホールの様子



シティリサイタルホールの様子

○グリーン・スクエア再開発地区視察

対応者：クリス・マクブライド プロフェッショナル・サービス、シニア・デザイン・マネージャー
 ショーバ・アブラハム グリーン・スクエア図書館チームリーダー

- ・シドニーのクローバー・ムーア市長の重要施策の 1 つであるグリーン・スクエアの再開発地区を視察した。
- ・グリーン・スクエアは、豪州最大の雨水活用施設や太陽光発電、ライトレールや自転車専用道を備えた環境先進地区を目指す再開発地区で、グンヤマ・パーク・アクアティック・アンド・レクリエーションセンター、ドライビング・グリーン公園、グリーン・スクエア図書館について担当者の説明を聞きながら視察を行った。
- ・グリーン・スクエアは、シドニー市の環境戦略を踏まえ、革新的でありながら環境に配慮した持続可能な都市デザインを採用し、都心部の伝統と魅力を再生し、住みやすく、働きやすく、観光にも最適な場所を目指している。
- ・どのような地域にしていくかという地域会議から、グリーン・スクエアのアイデアが生まれ、地域のニーズに応じて、「忍耐力」「回復力」「集まる」をキーワードとして、環境都市をコンセプトの再開発を行うこととなった。
- ・グリーン・スクエアの再開発プランは、1997 年に立ち上がり、再開発では、工場・住宅・商業施設等が複合的に立地し、2040 年に 6.3 万人の居住と 2.1 万人の雇用の創出を想定している。

【グンヤマ・パーク・アクアティック・アンド・レクリエーションセンターの見学】

- ・大規模な屋外プールやフィットネス施設が整備されている。
- ・今後、6万人以上が居住する再開発エリアの健康とスポーツの拠点として計画、整備された施設である。屋根には太陽光パネルが敷き詰められている。
- ・シニア層のプログラムが人気である。
- ・地元の方に利用してもらうという趣旨から車利用は想定せず、駐車場を設けてない。

【ドライング・グリーン公園の見学】

- ・グリーン・スクエア内は、かつて洪水被害に悩まされてきたが、水不足も課題であった。そこで、徹底した雨水の再利用（雨水を収集してトイレ等の水に利用）を行い、水不足の解消に努めるとともに、雨水排水溝を整備し、大洪水のリスク軽減を行っている。

【グリーン・スクエア図書館】

- ・2018年開園し、月に18,000人が訪れる。
- ・図書アプリがあり、カード不要となっている。電子書籍が豊富。
- ・一週間に2回。読み聞かせを行う。
- ・バリアフリーは勿論、夏涼しく冬温かくなるよう地下図書館として設計されている。
- ・中央にある円形吹き抜けの中庭から自然光を最大限に取り入れており、明るい館内であった。
- ・図書館内に、市役所関係の手続きを行えるコーナーも設置されている。



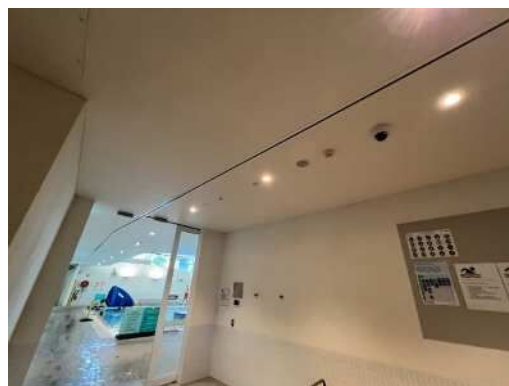
グンヤマ・パーク・アクアティック・
アンド・レクリエーションセンター
玄関ホール



グンヤマ・パーク・アクアティック・
アンド・レクリエーションセンター
トレーニングルーム



グンヤマ・パーク・アクアティック・
アンド・レクリエーションセンター内
での説明の様子



グンヤマ・パーク・アクアティック・
アンド・レクリエーションセンター内
プールに行くために、上のレーンを利用
して車いすでの移動が可能



グンヤマ・パーク・アクアティック・
アンド・レクリエーションセンター
から外をみた様子



ドライイング・グリーン公園の様子



図書館の様子



図書館の中の様子



図書館アプリの説明パネルの前で



図書館の中庭の様子



図書館内の飛行機のオブジェ



図書館内のレインボーカラーの本が飾られた人気の撮影スポット

○シドニー・名古屋姉妹都市委員会との意見交換会

対応者：ワーウィック・ミラー氏、デイビッド・ブッチャー氏、ジェリ・リア氏、
ドナ・ラバティ氏、ジェン・マクリーン氏、平野由紀子氏

- ・シドニー市と名古屋市の交流の架け橋となっただいているシドニー・名古屋姉妹都市委員会の方々と２０２５年の姉妹都市提携４５周年について意見交換した。
- ・松雄副市長から、コアラに代表される動物交流や市立高校生の派遣交流、名古屋まつりでの交流などでの同委員会のメンバーの尽力に対して感謝の意を伝えた。また、コアラは、名古屋市民とシドニーをつなぐシンボリックな存在となっており、その第一号を名古屋に連れてきてくださったデイビッド・ブッチャーさんに対して改めて感謝の意を伝えた。
- ・２年後の２０２５年は姉妹都市提携４５周年を迎え、名古屋とシドニーの交流を益々盛り上げていきたいので、引き続き、同委員会の皆様からの温かいご支援をいただけるよう、松雄副市長からお願いをした。



ワーウィック・ミラー氏との記念撮影



ドナ・ラバティ氏との記念撮影

○JTB オーストラリア訪問及び意見交換

対応者：武井一樹取締役社長、アウトバウンド事業部長 ハーディ久美子氏、インバウンド事業部長 杉本ひろゆき氏

- ・オーストラリアから名古屋へのインバウンド誘致施策の参考にする目的で、現地旅行社の JTB オーストラリアを訪問し、名古屋の観光コンテンツについて PR を行うとともに、本市の認知度および観光需要についてヒアリングと意見交換を行った。
- ・コロナ禍後、日本からオーストラリアへの観光客の戻りは悪いが、オーストラリアから日本へ行く観光客の流れは、活況である。
- ・同社では、オーストラリアから日本へ行くアウトバウンドの個人旅行をオーダーメイドで行っている。東京、京都、広島は、人気の訪問先となっている。
- ・名古屋は高山（白川郷は、人気）の中継地点となっていて、一泊する人もいる。
- ・愛知のジブリパークは人気がある。
- ・日本への観光に求めるものの一番は「食事」である。それから、神社、仏閣に限らず「歴史」に興味があり、2000 年の歴史を持った日本は魅力的。
- ・いま、円安が続いていて、さらに、日本は安全で安いので、人気がある。
- ・名古屋での「一泊」を「二泊」にする方法としては、インスタグラムが重要である。
- ・著名人が、この場所でこういった遊びしたとか、ここでは、この景色が見えるなどのストーリーを発信してほしい。ストーリーを発信するには、ウェブが良く、ウェブなら、JTB は、お客様にニュースレターで発信する協力できる。
- ・ファミトリップに呼んでいただくのは、一つの手だと思う。
- ・「名古屋まつり」も良いと思う。発信すれば、人気になる。インパクトのある写真が必要で、文章も読まない。また、「桜」も人気である。



打ち合わせの様子

日本旅行（オーストラリア）及び意見交換

対応者 本社営業部 水上 勝雅部長

- ・オーストラリアから名古屋へのインバウンド誘致施策の参考にする目的で、現地旅行社の日本旅行（オーストラリア）を訪問し、名古屋の観光コンテンツについて PR を行うとともに、本市の認知度および観光需要についてヒアリングと意見交換を行った。
- ・オーストラリアから日本への観光客の戻りは好調とのこと。
- ・同社では、グループでの受注型企画旅行が中心で、募集型は実施していない。
- ・複数の家族なら F I T（個人での海外旅行）の仕事を受けている。
- ・クルーズや訪日教育旅行、スポーツの旅行（遠征）についてはオーストラリアから日本へのお客が戻り出している。
- ・教育旅行とは、日本の学校への訪問のこと。児童を受け入れる学校があるかないか、ホームステイを受け入れる家庭があるかが重要となる。
- ・ファムトリップを招聘するのは「商品を企画する担当者の招聘」といった指定をしないと、ただの福利厚生になってしまうことがある。
- ・日本酒は人気である。
- ・オーストラリアの方は、ウェブ上のレビューみている。B to C 戦略で、レビューを増やせばうまくいくと思う。B to B に関しては、問い合わせが来た時のリアクションが大事である。



打ち合わせの様子

シドニー国際展示場（ICC シドニー）視察

対応者：最高経営責任者 Geoff Donaghy 氏

イベントサービス部長 Malu Barrios 氏

企画問題・コミュニケーション部長 Samantha Glass 氏

ダーリングハーバー最高経営責任者 Peter Robertson 氏

- ・ニューサウスウェールズ州政府とダーリングハーバー・ライブが 15 億豪ドルを投じ、2016 年 12 月に開業した ICC シドニーは、20ha にわたるダーリングハーバー開発プロジェクト（投資額：34 億豪ドル）の中心に立地する。
- ・建物は コンベンションセンター、エキシビションセンター、アウェアスーパーシアターの 3 つで構成されている。
- ・MICE には、宴会形式で 2000 名を収容できるグランドボールルームをはじめ、多機能・多目的な会議室、各種展示ホールなどの活用が可能である。
- ・宴会やガラディナー、カクテルパーティーなど、どのようなイベントも専従のスペシャリストがサポートしてもらえる。
- ・コンベンションセンター施設は、完全に別の自己充足型のイベントを同時に 3 つ開催できる収容能力がある。
- ・最高級の階段式シアターは 8,000 席（GA モードでは 9,000 席）で、大規模な会議や総会、エンターテインメントショーに適している。柔軟性を考慮した設計により、6,000 名または 5,000 名用にも変更が可能である。
- ・展覧会場の収容能力としては、合計の屋内展示会の収容能力は 35,000 平方メートル。
- ・最上階にあるオーストラリア最大のボールルームからは、ダーリング・ハーバーの壮大な水面とシティー街並みの眺めを体感できる。宴会では 2,000 名、カクテルパーティーでは 3,500 名を収容できる。



建物のマップの前にて



ICC の通路



展示スペースの見学



ガラディナー等を行うスペース



天井の様子



シアターの様子



ICC からみえる外の風景



記念撮影

○日本政府観光局（JNTO）シドニー事務所訪問及び意見交換

場 所：日本政府観光局シドニー事務所

対応者：北澤直樹所長、得津尚希次長

内 容：

- ・オーストラリアから名古屋へのインバウンド誘致施策の参考にする目的で訪問し、名古屋の観光コンテンツについて PR を行うとともに、本市の認知度および観光需要についてヒアリングと意見交換を行った。
- ・北澤所長からヒアリングした主な内容は次のとおり。
- ・2023 年 10 月の訪日豪州人数は、対 2019 年同月比 20.2%増の 62,000 人であった。
- ・10 月は豪州からのアウトバウンドが増加する時期であり、継続したプロモーション効果、継続的な円安、航空便の新規就航、復便等から訪日客数が増加した。
- ・渡航先としては、自分とのルーツある国の渡航多い。
- ・訪日に期待することは、日本食を食べること、自然・景勝地観光、ショッピングである。
- ・また、ストーリーを聞きたい（ガイドをつけたい）ということが訪日観光に期待されている。
- ・広報としては、フェイスブック、インスタが、地味だけど、効果的である。
- ・JNTO は、SNS を 2 日に一回発信している。
- ・オーストラリアは、リピーターが多い。（四割がリピーター）
- ・スキーで、白馬に来た人を名古屋にひっぱるのは、可能だと思う。
- ・駅から、ホテルまで行けない人が意外と多いので、細やかなフォローがありがたがられる。



記念撮影